

脳・神経系統以外による身体性機能障害にかかる障害診断書

氏名		男・女	生年月日	昭和・平成	年	月	日
障害名(現在起こっている障害、例えば「上肢・下肢・指等の機能障害」等の部位を明記してください。)							
原因となった疾病・外傷名							
交通事故・労災 / その他事故 / 疾病 / 先天性 / その他 ()							
疾病・外傷発生年月日 年 月 日 場所							
参考となる経過・現症 (画像診断及び検査所見を含む。)							
<p>【必須記入事項】 傷病が治ったかどうか</p> <p><input type="checkbox"/> 傷病が治っている . . . 治った日 (※) 平成 年 月 日</p> <p><input type="checkbox"/> 傷病が治っていない</p> <p>※ 「治った」とは、療養が終了しており、かつ症状が固定している状態を意味します。</p>							
総合所見 (傷病の発生から現状に至る経過及び現症、症状の固定又は永続性の状態を記載してください。)							
その他参考となる合併症状							

上記のとおり診断する

診断年月日 平成 年 月 日
 本診断書発行日 平成 年 月 日

病院、診療所若しくは介護
 老人保健施設等の名称及び
 所在地又は医師の住所

(氏名) 医師名

印

氏名	男・女	生年月日	昭和・平成 年 月 日
----	-----	------	-------------

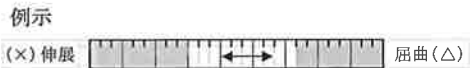
関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT)

(この表は必要な部分を記入)

筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()
() 前屈		後屈 ()	頸 () 左屈	
() 前屈		後屈 ()	体幹 () 左屈	
Ⓡ () 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 外転		内転 ()	肩 () 内転	
() 外旋		内旋 ()	() 内旋	
() 屈曲		伸張 ()	肘 () 伸張	
() 回外		回内 ()	前腕 () 回内	
() 掌屈		背屈 ()	手 () 背屈	
() 屈曲		伸張 ()	中指節 (MP) () 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	近位指節 (PIP) () 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 屈曲		伸張 ()	() 伸張	
() 外転		内転 ()	股 () 内転	
() 外旋		内旋 ()	() 内旋	
() 屈曲		伸張 ()	膝 () 伸張	
() 底屈		背屈 ()	足 () 背屈	

- 備考(注)
- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
 - 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
 - 3 関節可動域の図示は、 のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(〰)を引く。
 - 4 筋力については、表()内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失又は著減(筋力0、1、2該当)
△印は、筋力半減(筋力3該当)
○印は、筋力正常又はやや減(筋力4、5該当)

- 5 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
- 6 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる
- 7 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。



8 記載のない事項は正常と判断する。